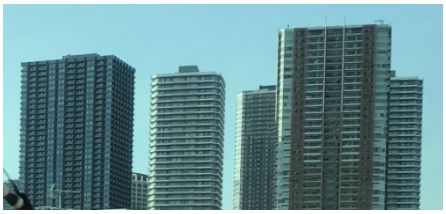
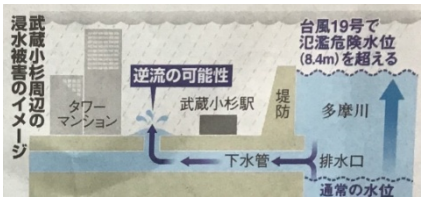
タワマン浸水

写真上は今年 4 月、東京へ調査に行った帰り、新幹線デッキから撮った。多摩川近くに林立するタワ―マンション。略して「タワマン」に関心をもち、東京都中央区や大阪市などについて調べてきた。タワマンのリスクとして、地震と停電が話題になってきたが、今回の台風 19 号では、水害リスクが露呈することになる。写真下のように、朝日新聞 19 日夕刊 1 面に大きく掲載されているので紹介したい。



川崎市中原区。地下 3 階の電気系統の設備が浸水した武蔵小杉駅近くのタワ―マンション(47 階建て、643 戸)は中層以下の停電や、全戸断水が続いた。エレベーターは止まったままだという。住人の男性は 18 日、冬物の服を運ぶために自宅に戻った。自宅は 13 日未明から停電し、冷蔵庫が使えないので、保存していた食べ物は棄てた。復旧の見通しが分からず、「何もかも不安だ」。その後、身を寄せている親戚宅に向かった。神奈川県にも大雨特別警報が出た 12 日、中原区では24時間で219ミリの雨を観測した。ピーク時、付近の多摩川の水位は氾濫危険水位の 8.4 メートルを上回った。水が堤防を越えたり、決壊したりはしなかったが、区内で住宅などの浸水が約 720 件起きた。隣の高津区では、多摩川に流れ込めなくなった支流の水が溢れるなどして浸水した。市上下水道局によると、中原区では多摩川の水が下水管を通じて逆流し、地上に噴き出した可能性が高いという。水路や下水の水が行き場を失って起こる内水氾濫だ。付近の下水道は雨水と汚水を同じ管に流すタイプで、処理能力を超えるような大雨の場合、下水が多摩川に流れ込むようになっている。排水口は普段の川面よりも高い場所にあるが、今回は川の水位が上回った。下水道に逆流を防ぐ扉があるが、この日は閉めなかった。市の担当者は「強い雨が降っており、閉めると下水が流れずにあふれるおそれがあった」と説明する。東京大の古米弘明教授(都市工学)「市街地が河川の水位より低い場合は、有効な対策をしておかないと逆流や内水氾濫が起こりうる」と指摘したうえで「流域全体に及ぶような豪雨のリスクが今後高まる。浸水被害が想定される市街地では、住宅の基礎部分のかさ上げやマンションの地下空間の耐水化など、街づくりのなかで被害を軽減する取り組みを進めるべきだ」と話す。



上冠水した武蔵小杉駅周辺＝13日午前5時半ごろ、提供写真 下浸水により中層階より下で停電が続いたタワーマンション(左)＝17日午後10時45分、松村北斗撮影、いずれも川崎市中原区

(2019 年 10 月 20 日)